

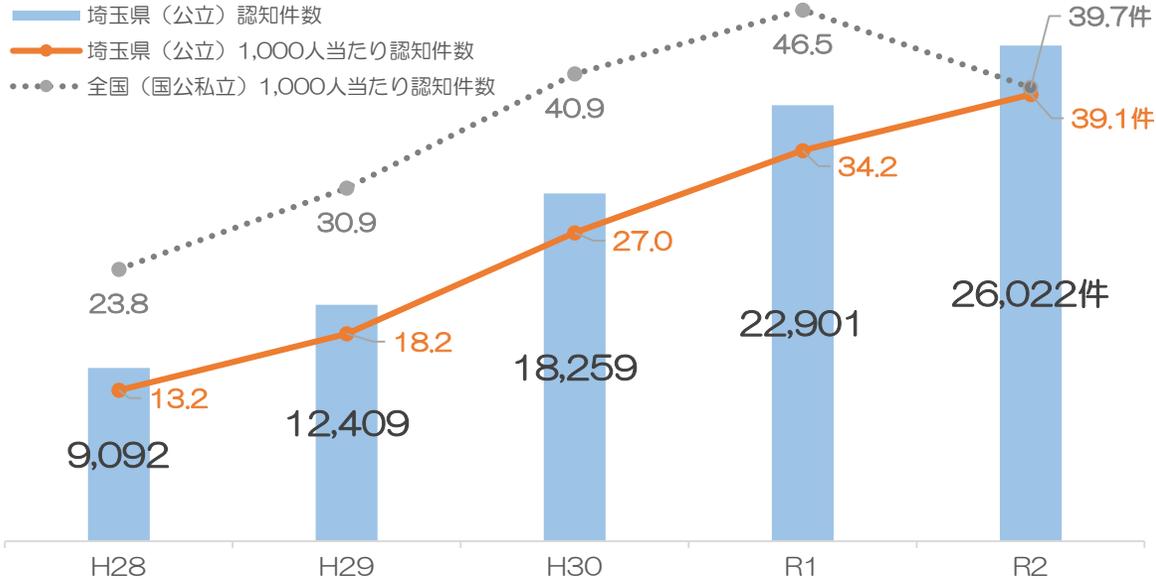
報告事項 イ

件名	令和2年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
提出理由	令和2年度埼玉県公立学校における児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について、別紙のとおり報告します。
概要	<p>1 調査の趣旨 児童生徒の問題行動等の実態把握を行うことにより、児童生徒の問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に、また、不登校児童生徒への適切な支援につなげていくもの。</p> <p>2 調査対象期間 令和2年4月1日から令和3年3月31日までの1年間</p> <p>3 調査項目、調査対象及び調査結果の概要（カッコ内は前年度）</p> <p>(1) いじめ <小・中・高等学校及び特別支援学校> 認知件数 26,022件（22,901件） 1,000人当たりの認知件数 39.1件（34.2件）</p> <p>(2) 暴力行為 <小・中・高等学校> 発生件数 3,925件（4,601件） 1,000人当たりの発生件数 6.0件（6.9件）</p> <p>(3) 不登校 <小・中・高等学校> <小・中学校> 不登校児童生徒数 8,934人（8,275人） 1,000人当たりの不登校児童生徒数 16.5人（15.2人） <高等学校> 不登校生徒数 1,707人（2,179人） 1,000人当たりの不登校生徒数 15.0人（18.7人）</p> <p>(4) 中途退学 <高等学校> 中途退学者数 971人（1,333人） 在籍者に占める割合 0.8%（1.1%）</p> <p>(5) 自殺 <小・中・高等学校> 自殺が疑われる事案の件数 21件（15件）</p>

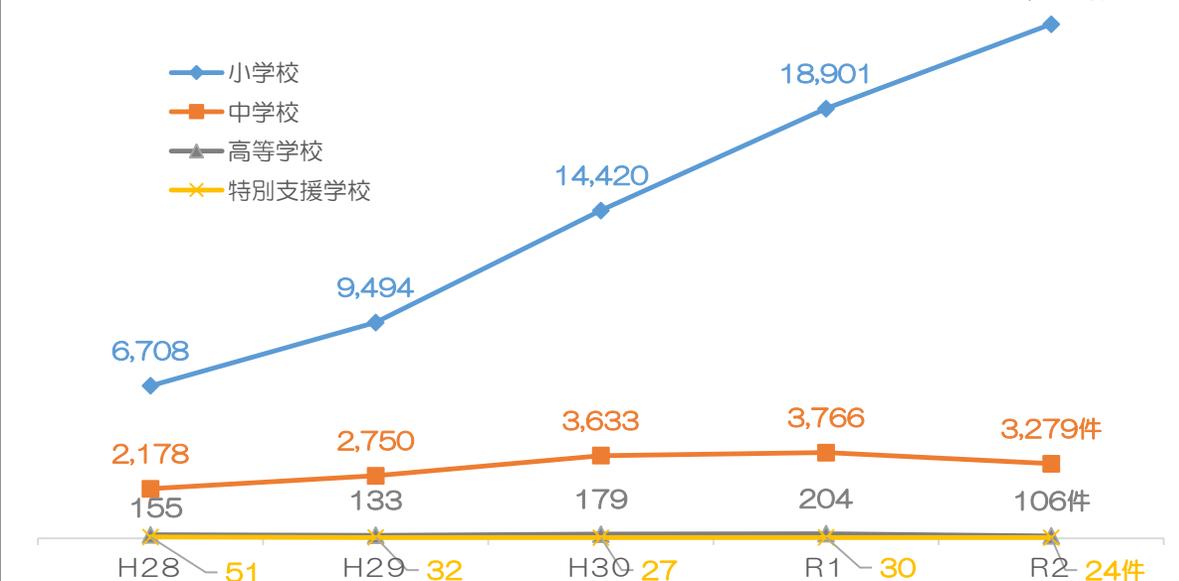
（生徒指導課）

1 いじめ

認知件数の推移（小・中・高・特 合計）



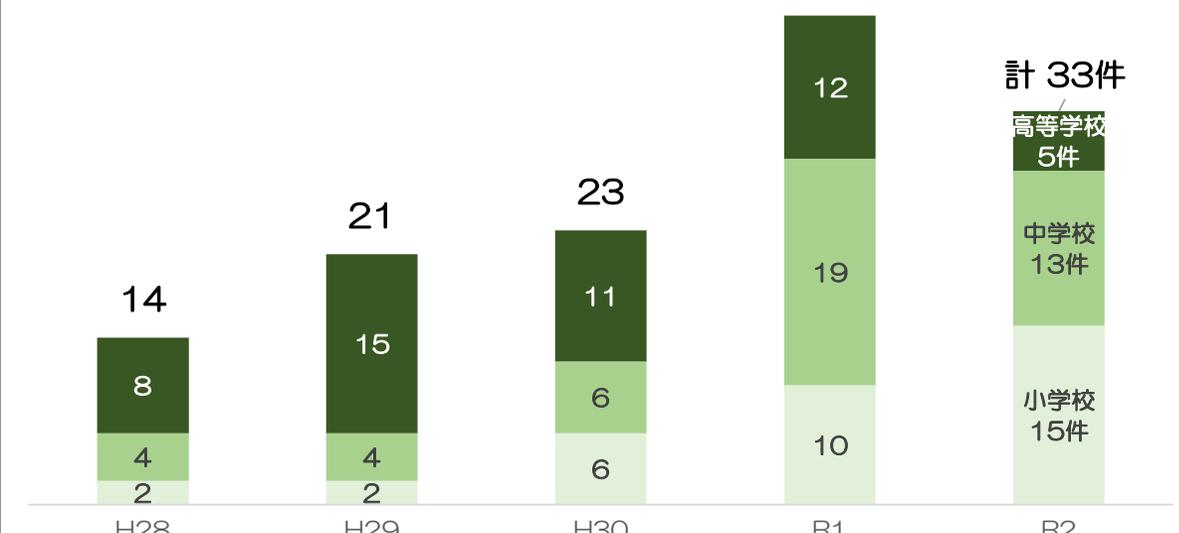
学校種別認知件数の推移（埼玉県）



態様別認知件数（埼玉県）

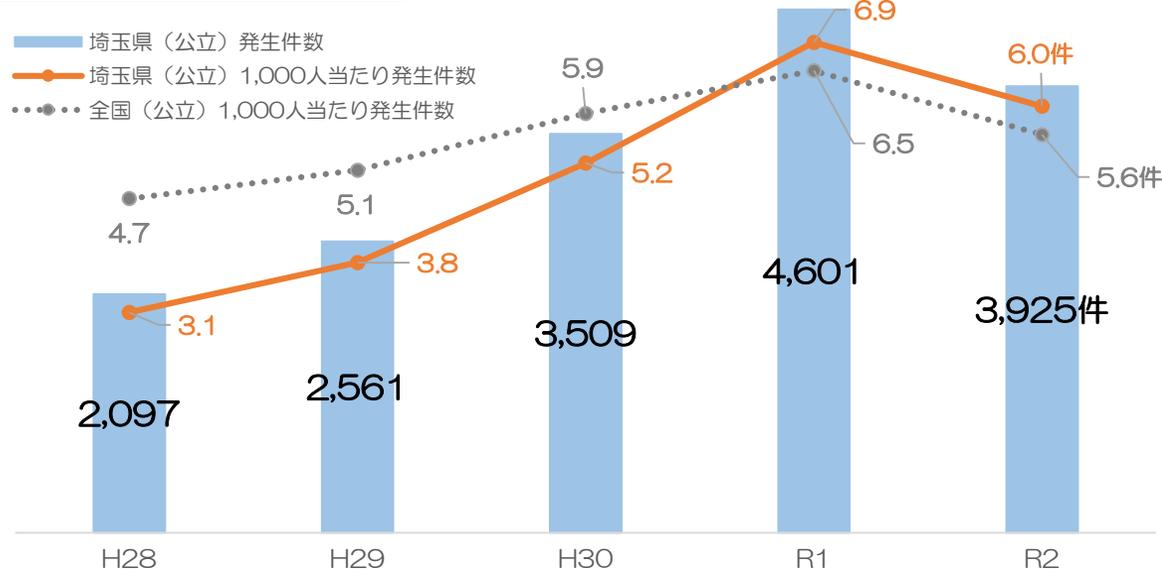


重大事態件数の推移（埼玉県）



2 暴力行為

発生件数の推移（小・中・高 合計）

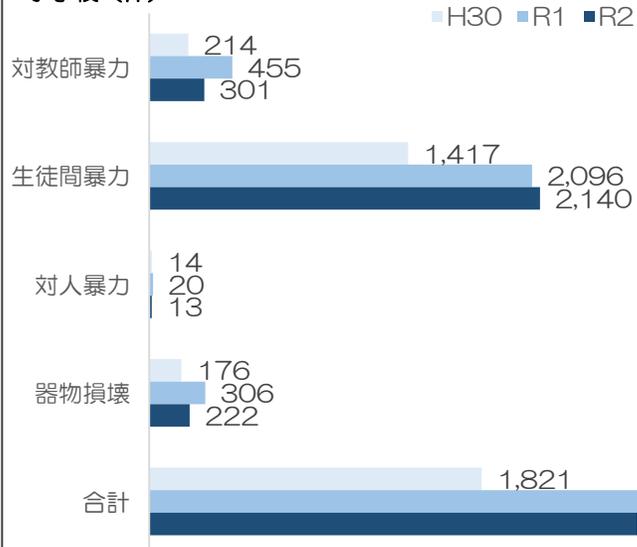


学校種別発生件数の推移（埼玉県）

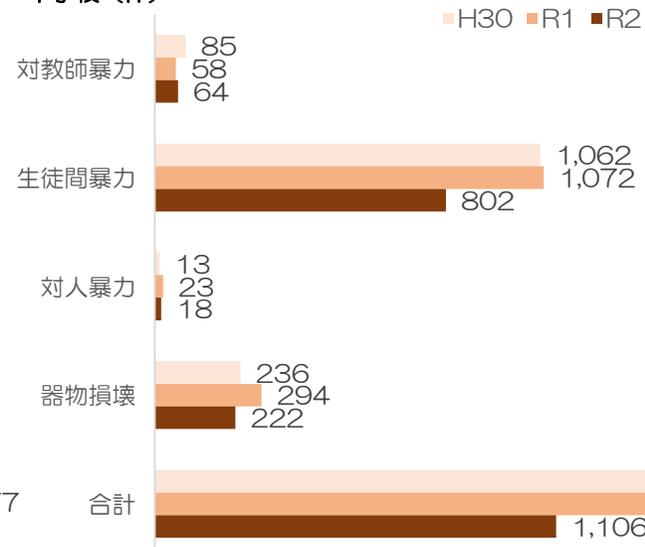


態様別発生件数（埼玉県）

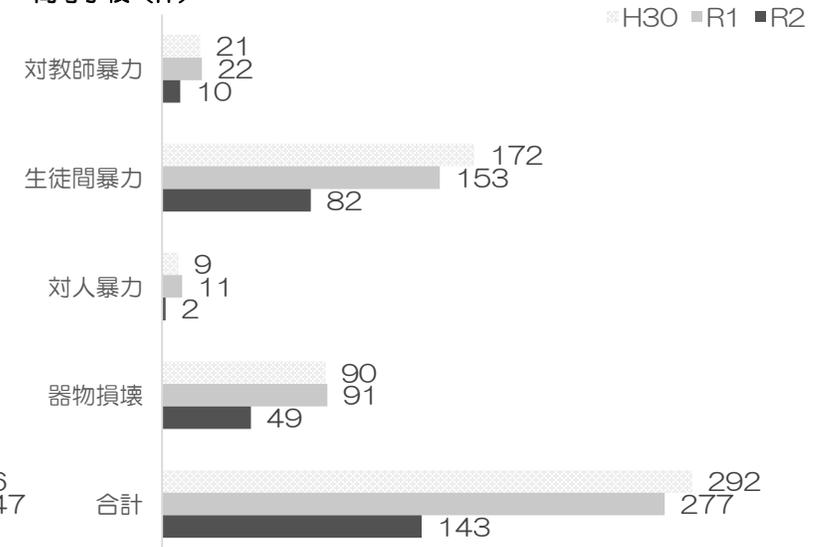
小学校（件）



中学校（件）



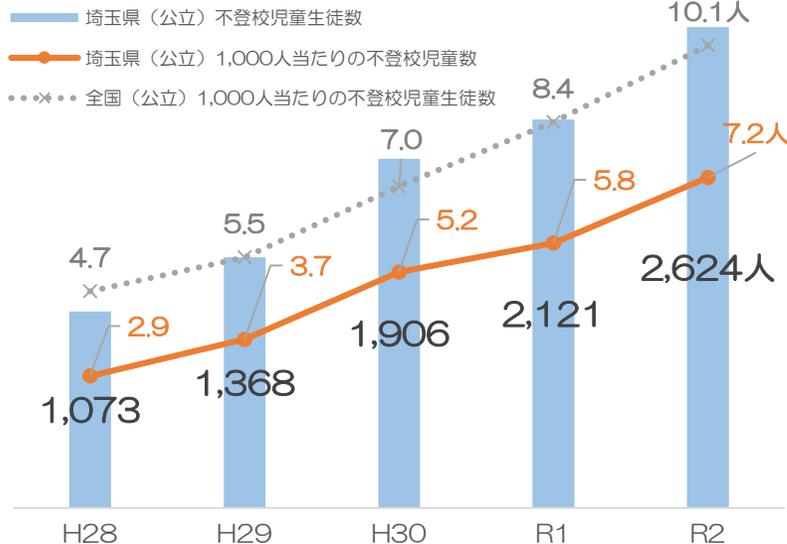
高等学校（件）



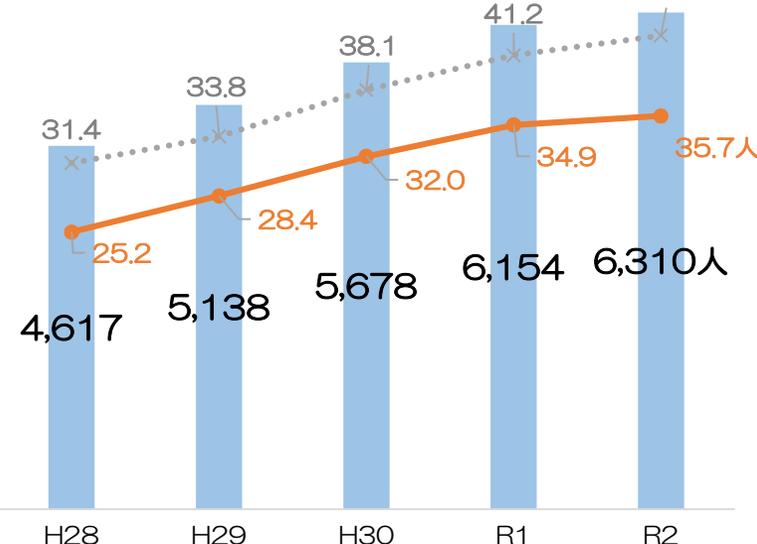
3 不登校

不登校児童生徒数の推移

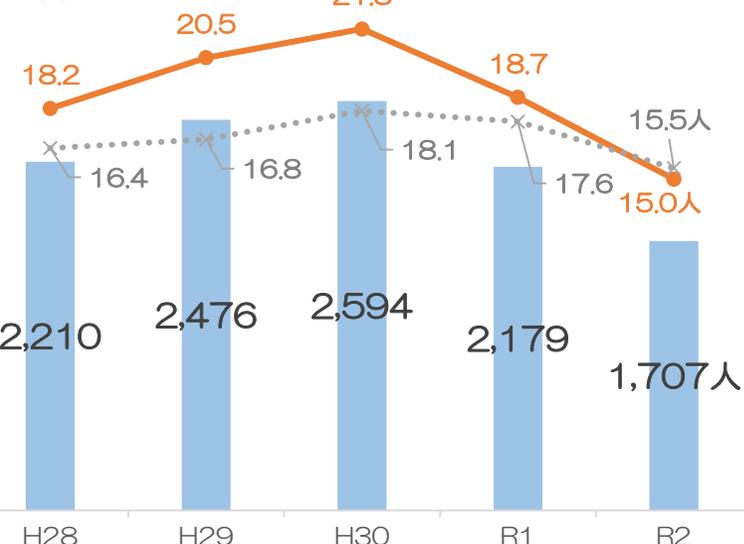
小学校



中学校



高等学校

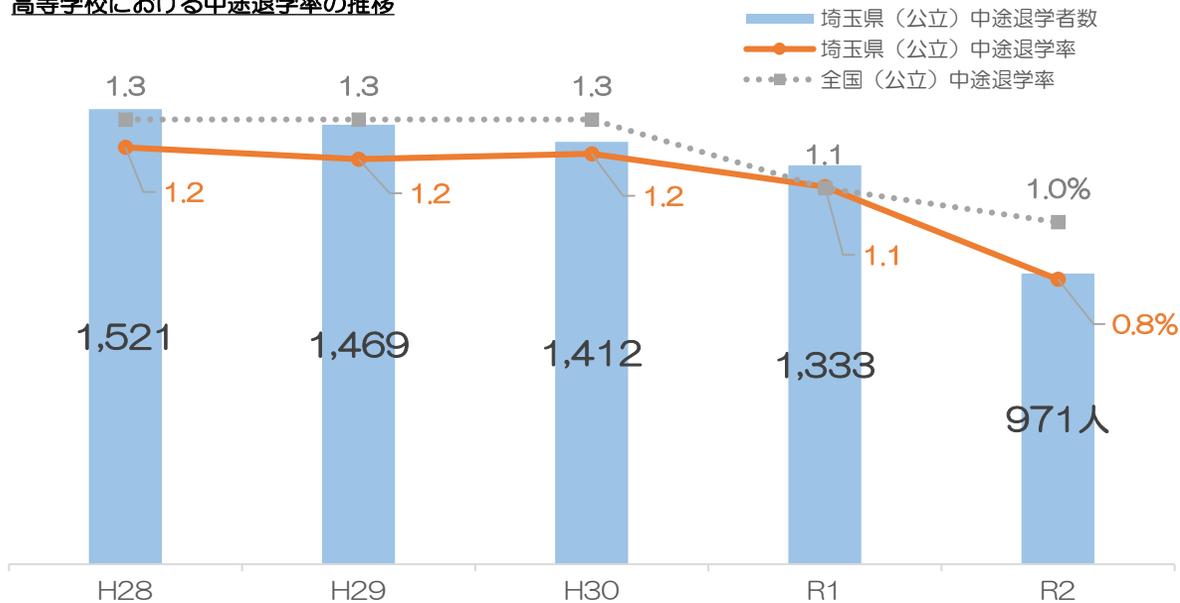


不登校の要因（主たるもの）の上位3項目（埼玉県） ※カッコ内は前年度

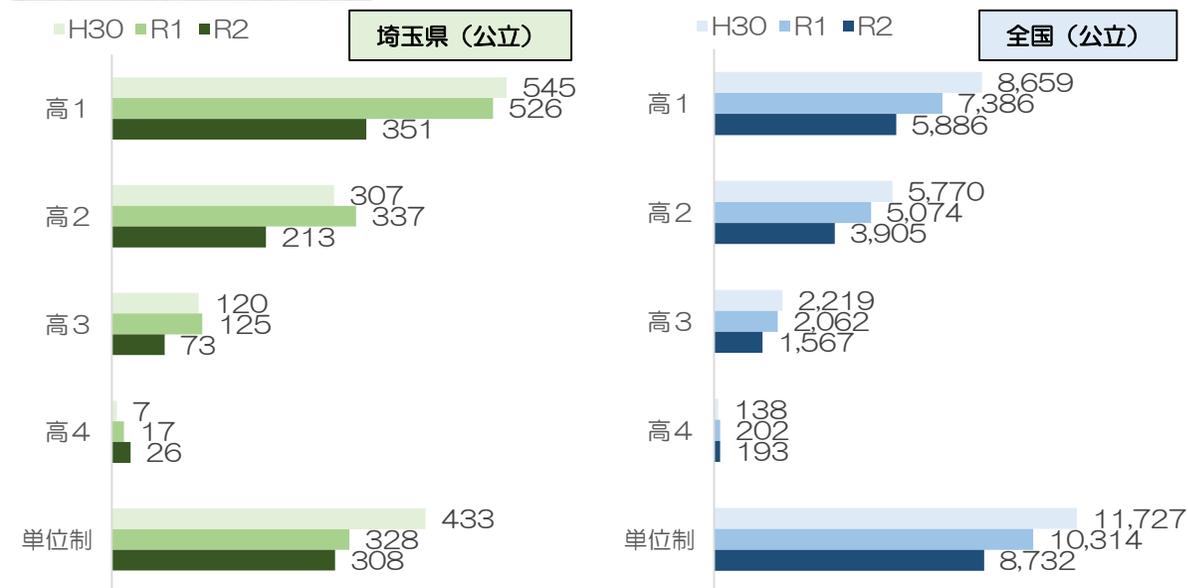
	小学校	中学校	高等学校
1位	無気力・不安… <u>51.4%</u> (42.0%)	無気力・不安… <u>51.0%</u> (42.9%)	無気力・不安… <u>31.1%</u> (33.1%)
2位	生活リズムの乱れ、あそび、非行… <u>12.5%</u> (11.6%)	いじめを除く友人関係をめぐる問題… <u>12.8%</u> (15.8%)	入学、転編入学、進級時の不適應… <u>15.9%</u> (8.6%)
3位	親子の関わり方… <u>11.7%</u> (15.4%)	生活リズムの乱れ、あそび、非行… <u>10.2%</u> (9.5%)	生活リズムの乱れ、あそび、非行… <u>11.7%</u> (23.0%)

4 中途退学

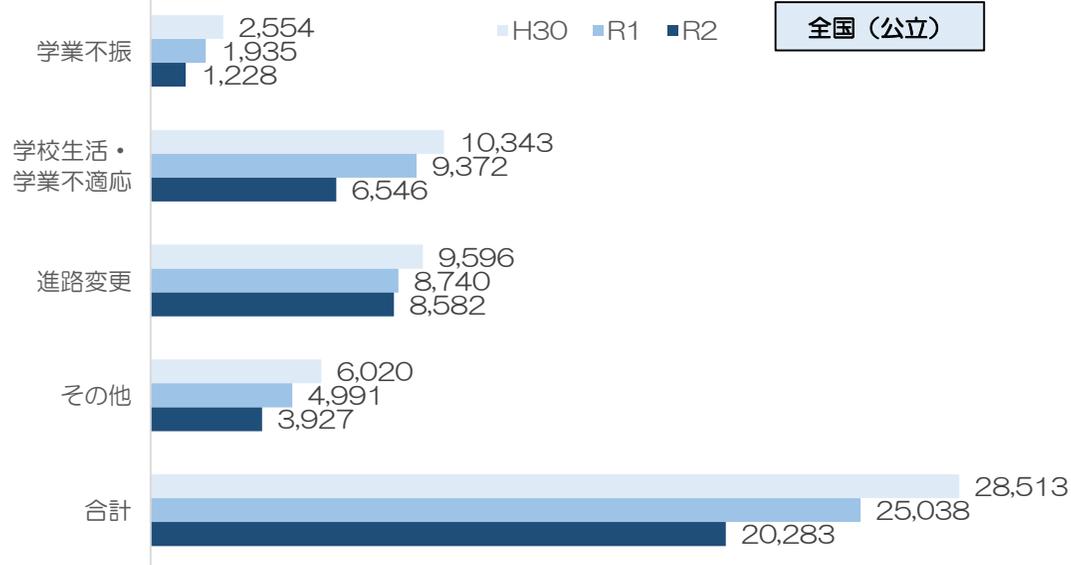
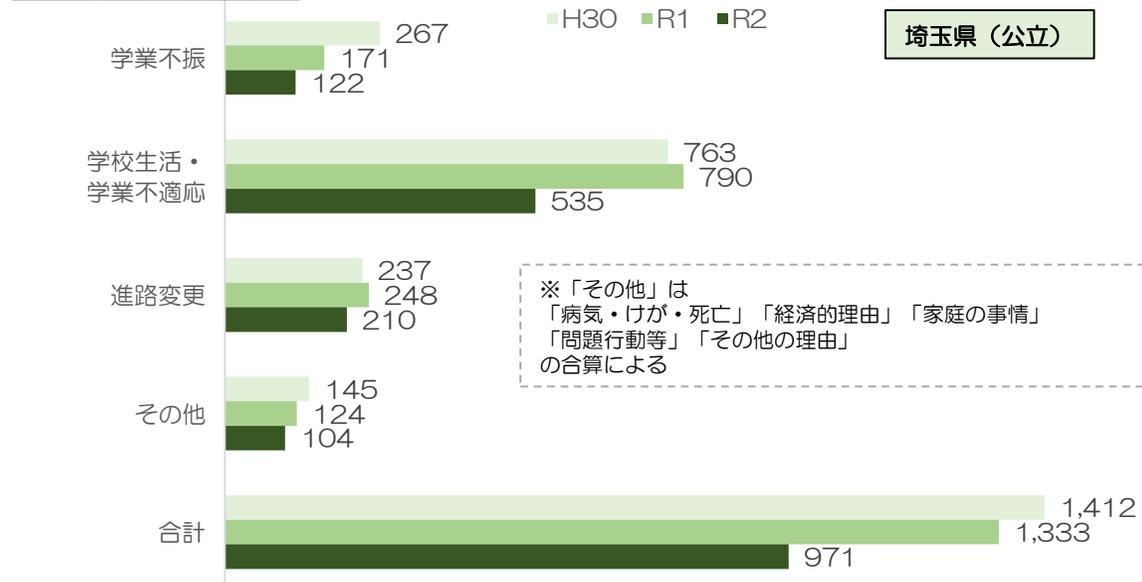
高等学校における中途退学率の推移



学年別中途退学者数の推移（人）

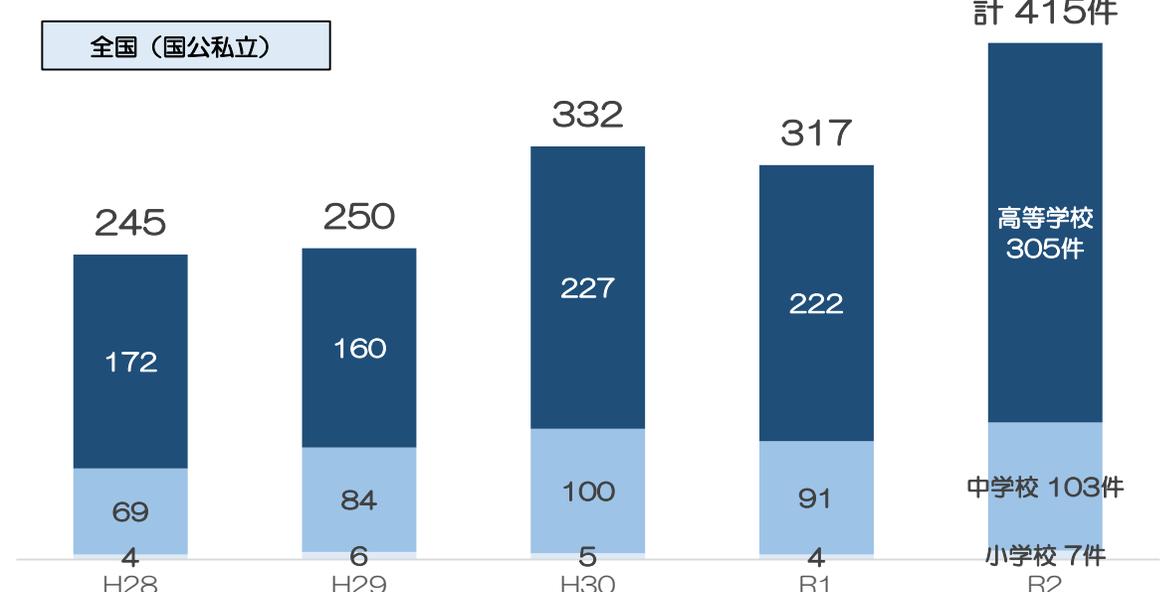
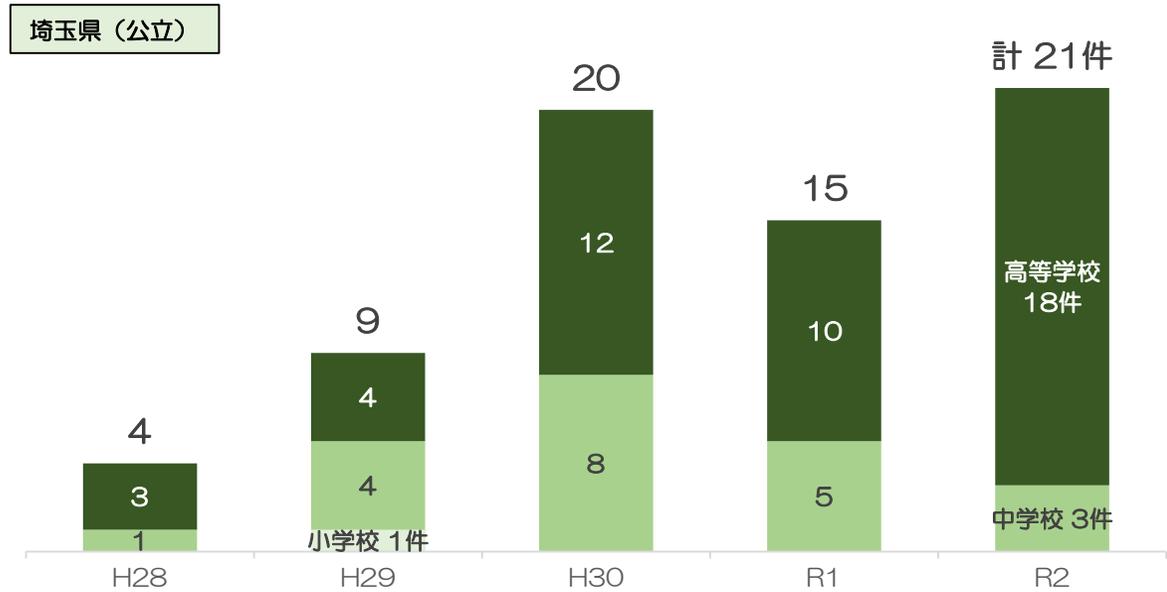


事由別中途退学者数（人）



5 自殺

自殺が疑われる事案の件数の推移



埼玉県（公立）

	H28	H29	H30	R1	R2
小学校	0	1	0	0	0
中学校	1	4	8	5	3
高等学校	3	4	12	10	18
合計	4	9	20	15	21

全国（国公立）

	H28	H29	H30	R1	R2
小学校	4	6	5	4	7
中学校	69	84	100	91	103
高等学校	172	160	227	222	305
合計	245	250	332	317	415

6 調査結果

いじめ

- 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は、26,022件（前年度22,901件）であり、前年度から13.6%増加している。学校種別に見ると小学校のみ増加しており、中・高・特別支援学校では減少している。
- いじめの重大事態発生件数は、33件（前年度41件）で減少しているが、小学校における2号重大事態（相当期間の欠席）が増加している。
- 引き続き、いじめ問題に初期段階から適切に対応することで、重大事態に至らないよう取り組んでいく必要がある。一方で、いじめ防止対策推進法に基づき、取り上げるべきものは適切に取り上げなければならないと捉えている。

暴力行為

- 小・中・高等学校における、暴力行為の発生件数は3,925件（前年度4,601件）であり、前年度から14.7%減少している。学校種別に見ると全ての校種で減少している。

不登校

- 小・中学校における不登校児童生徒数は8,934人（前年度8,275人）であり、前年度から8.0%増加している。高等学校における不登校生徒数は、1,707人（前年度2,179人）であり、前年度から21.7%減少している。
- 引き続き、専門家や外部機関等と連携しながら学習機会の確保や教育相談体制の充実に更に取り組んでいく。

中途退学

- 高等学校における中途退学者数は、971人（前年度1,333人）であり、前年度から27.2%減少している。在籍者に占める割合は0.8%（前年度1.1%）である。

自殺

- 小・中・高等学校における自殺が疑われる事案の件数は21件（前年度15件）であり、前年度から増加している。
- 各学校においては、教職員一人一人がアンテナを高く張り、児童生徒のささいな変化を見逃さないことが重要である。また、児童生徒が、学校や保護者に直接相談しづらい悩みや不安もあることから、24時間の電話相談やSNS相談など学校以外の相談窓口も併せて活用し、悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見、早期対応に引き続き取り組んでいく。